

発達障害児者の支援に関する 標準的な研修プログラム

発達障害支援に関する研修は、自治体ごとに研修内容が異なったり、テーマで単発であったり、障害の定義的なもので終わっていたり、実際のアセスメントから支援までの流れについて標準的な研修内容が示されておらず【保健・医療・福祉・教育】で一貫した研修プログラムがないなどの多くの課題がありました。

そのため、発達障害児者支援の研修プログラムの研究（厚生労働科学研究・辻井班）の取り組みとして、発達障害の理解・支援と研修実施に関わる国立機関・専門家らで検討し、【保健・医療・福祉・教育】等を包括した、わが国の標準的な研修プログラムを開発しました。

本研修のねらい

本研修の普及により、発達障害児者の発達支援や地域支援に取り組むにあたって知っておくべき「標準的なアセスメント・ツールと支援技法、多機関連携などの概略」をつかむことができます。

- ① 発達障害支援に必要な障害特性の理解の仕方 **アセスメント**
- ② 発達障害児者の支援の仕方 **支援技法、多機関連携**

今後、全国の発達障害者支援センターや教育センター等の研修担当職員が講師を務めることを中心に想定し、各地で担当職員による研修が可能になるための取り組みを行います。今回の研修プログラムは最初のプラットフォームですので、今後の実践や研究の進展から、定期的な改訂を重ねていくものとしています。

研修プログラムの全体構成

- ① アセスメント・ツールと個別の支援計画
- ② 適応行動
- ③ 家族支援（きょうだい支援）
- ④ ライフステージに沿った本人支援（幼児期／児童期／青年期／成人期）
- ⑤ PDCAサイクルから支援の質を向上させていく

本研修の内容の全体像と関連性

保健・医療・教育における早期把握

医療：診断・ケア

乳幼児健診、就学時健診

- 保健・医療・福祉・教育等における研修
- 支援の質の向上

対象児者

発達障害特性

適応行動

- コミュニケーション
- 日常生活 ■社会性 ■運動

- 二次障害
- 問題行動
- 精神症状

家族・きょうだい支援

標準的なアセスメント・ツール

- 保健・医療・福祉・教育等での実施・把握・計画

ライフステージに沿った課題と標準的な支援適応

- 適応行動 ■運動 ■社会性 ■言語
- 学習など

発達障害支援に関わる法律・制度・施策等

本研修の活用イメージ

(発達障害者支援センター・教育センター職員が実施する場合)

講師：発達障害者支援センター職員

①内部の若手・新任職員研修

講師：教育センター職員

①内部の若手・新任職員研修

②地域の支援者向け研修

地域の福祉機関・施設等

③地域の機関連携に関する研修

地域の学校・教育機関等

②地域の支援者向け研修

地域の機関保健・医療等

(各地域)

活用例

- 講師＝センターの職員(※経験年数3年以上) 重点的テーマや課題に関連した部分研修実施も可能

①内部の若手・新任職員研修

- 若手・新人職員／教員を対象 ●発達障害児者と家族への理解、支援の基盤となる知識やツール、技法の概略 ●資料を活用した講義、支援計画策定の検討会の併用など

②地域の支援者向け研修

- 地域の支援者・教員を対象 ●地域の課題に対応した知識やツール、技法 ●アセスメントや支援のワークショップ、各機関での支援検討会の併用など

③地域の機関連携に関する研修

- 地域の福祉、教育、保健・医療等の機関を対象 ●各機関の役割・取り組み等に関する相互理解 ●地域での具体的な連携のあり方の検討会の併用など

令和2年度 厚生労働科学研究 (障害者政策総合研究事業)

「国立機関・専門家の連携と地域研修の実態調査による発達障害児者支援の効果的な研修の開発」研究班
研究代表者：辻井正次(中京大学)

問い合わせ先

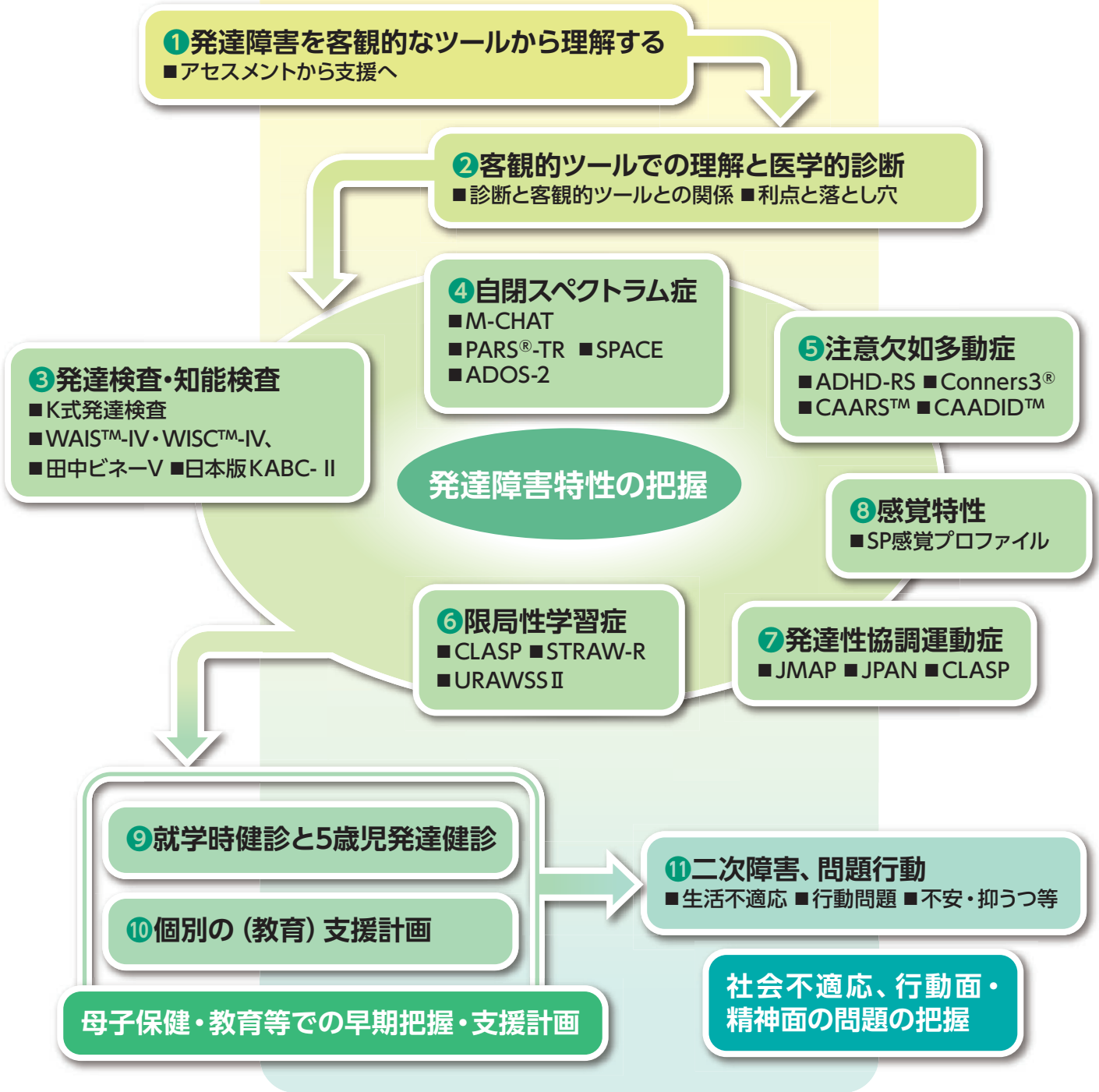
中京大学 現代社会学部 辻井正次研究室

〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立101

E-mail chukyo.tj.lab@gmail.com

1 アセスメント・ツールと個別の支援計画

本プログラムの構成と内容



2 適応行動

1 適応行動とVineland™-II 適応行動尺度

2 幼児の適応行動評価 TASP

3 家族支援 (きょうだい支援)

**1 家族支援の重要性、
ペアレント・プログラム**

**2 ペアレント・トレーニング、
きょうだい支援、
ペアレント・メンター**

4 ライフステージに沿った本人支援

■ 幼児期

① 適応行動：身辺自立の支援

- 構造化 ■ 視覚支援 ■ ABA ■ 課題分析 ■ 機能分析

② 運動・感覚あそび

- 安定した姿勢 ■ 目の運動 ■ バランス ■ 体の中心
- 手指の運動と触覚 ■ 両手の役割

③ 遊びを媒介とした社会性の支援

- 共同注意 ■ JASPER ■ SPACE ■ ESDM ■ PCIT

④ 言語面の支援

- 言語支援 ■ 視覚支援
- 読み書き・吃音・発音の問題への支援

■ 児童期

① 適応行動：環境調整・感情調整

- 環境調整（構造化） ■ 感情調整 ■ 感情理解 ■ 呼吸法
- リラックス

② 学習への指導・支援

- 読み・書き・算数における苦手さへの支援
- 授業・学びのユニバーサルデザイン

③ 発達性協調運動症・協調運動面への支援

- 感覚統合療法
- 日常作業遂行における認知的オリエンテーション(CO-OP)
- 認知作業トレーニング

④ 友達作りと社会的スキル

- SST ■ フレンドシップ・プログラム
- ソーシャルシンキング
- 休み時間の支援（リメイキング・リセス）

■ 青年期

① 自己理解

- 発達障害≠不適応 ■ コミュニケーション障害と二次障害
- 外傷的体験と適応行動

② 適応支援：精神科的併存症の理解と予防

- 精神疾患の併存、予防・ストレス対処法
- ICTを活用した地域生活支援

③ 社会性への支援

- 社会性支援プログラムPEERS®
- 所属集団 ■ 異性との関係性
- 就労に向けて

■ 成人期

成人期・高齢期の相談

- 親亡き後を生きていく ■ 子どもが成人期で親たちが意識しておくべきこと ■ 成人期支援のバリエーション ■ 就労相談・経済面の相談 ■ 医療機関でのショートケア ■ 当事者同士の支え合い ■ 高齢期相談事例 ■ 高齢期発達障害者の支援ニーズ

5 PDCAサイクルから支援の質を向上させていく

① 特別支援教育における研修

- 特別支援教育の研修の充実
- 教職課程コアカリキュラム
- 発達障害と生徒指導
- 特別の支援を必要とする・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童及び生徒

② 保健・医療・福祉等における研修

- 地域を診る目を養う（地区診断）
- 医療・福祉の連携のための研修の目的と企画
- 発達障害者支援に関する国の主な施策
- 家庭・教育・福祉連携推進事業
- 発達障害情報・支援センター

③ 実践を科学的に検証可能なものにしていくために

- 現在の適応行動
- これまでの経過と発達特性・知的能力等や発達状況の評価
- 保護者の支援についての準備状況等の把握
- アセスメントを基にした支援計画
- 科学的根拠を基にした取り組みの重要性